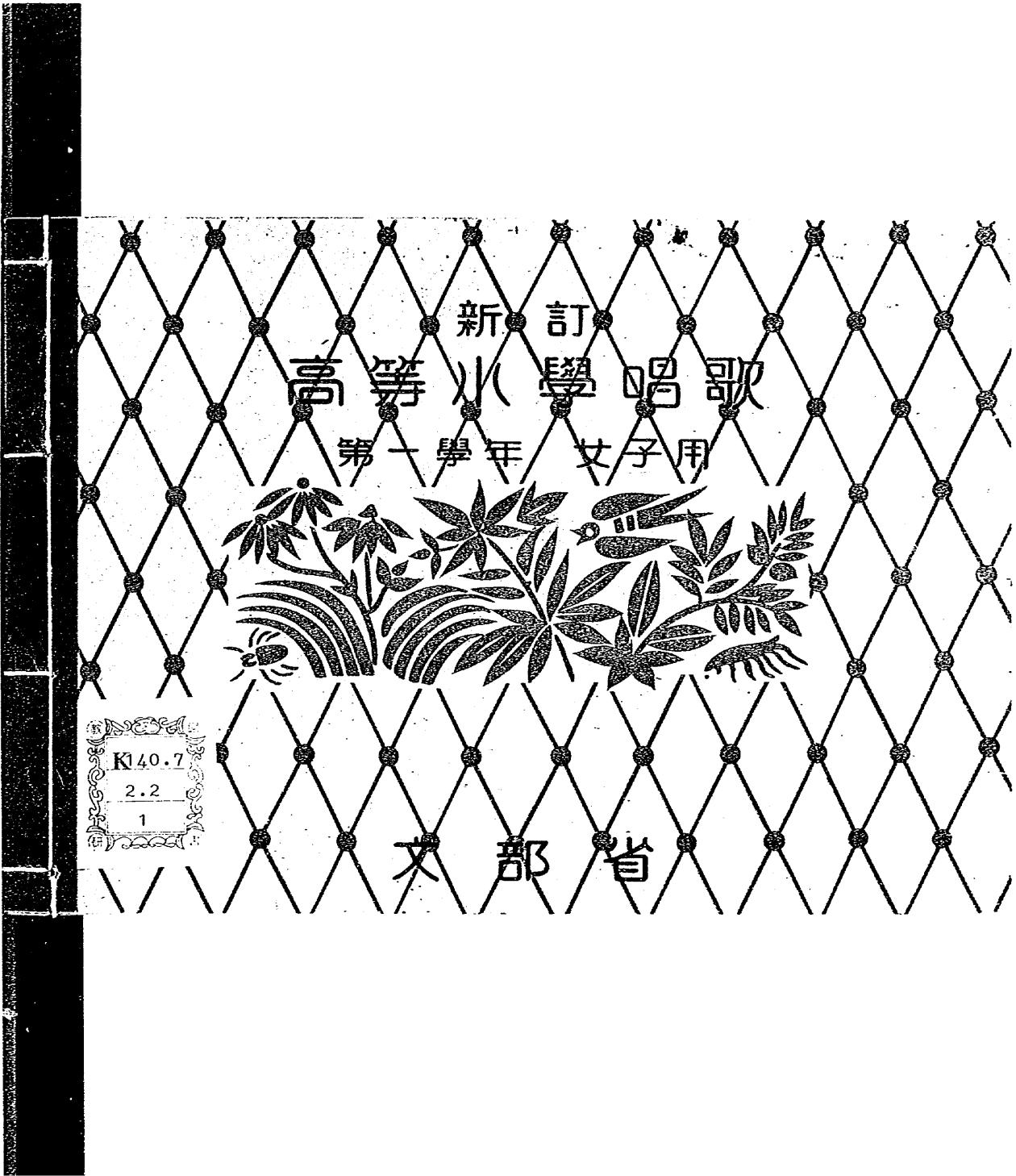


K1 40.7

2.2

1



新訂  
高等小學唱歌

第一學年 女子用



文部省

- 一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。
- 二、本書ハ、各學年ソレヅレ男子用ト女子用トニ分チラ編纂シ、何レモ每卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。
- 三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部（第一學年用「昭慈皇太后御歌」・第二學年用「夏の曉」・第三學年用「稻刈」）ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。
- 四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。
- 五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲グタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲グタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノト男子用・女子用各別ノモノトヲ併セ掲グタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。

- 六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ增進セシムルコトヲ得ベシ。
- 七、唱歌曲ノミヲ掲グタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。
- 八、本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ダナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。
- 九、本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ舊尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。
- 一〇、本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

## 目 次

一 韶憲皇太后御歌	2	一二 高嶺の月	34
二 春の曲	4	一三 村時雨	36
三 鶲	8	一四 子守歌	38
四 風薰る	10	一五 御代の榮(二部合唱)	40
五 藤	12	一六 冬來る	42
六 希望	16	一七 御裳濯川	44
七 梅雨晴	20	一八 薩摩守	48
八 秋近し	22	一九 幼き頃の思出	50
九 灯	24	二〇 春の訪れ	52
一〇 舟にのりて	26	二一 雛祭の宵	54
一一 紫式部	30	二二 送別の歌(獨唱及び二部合唱)	56

## 一、昭憲皇后御歌

昭憲皇后御歌

$J=60$

mp

昭憲皇后御歌

一、人知れず思ふ心のよしめしも

照らし分くらん天地の神

二、日の本のさかひ離れてゆく船上に

國の光も載せてやらまし

三、神風の伊勢の内外の宮柱

ゆるぎなき世をなほ祈るかな

四、朝毎にむかふ鏡のくもりなく

あらまほしきは心なりけり

# 春の曲

春の曲



ソラニナガルメヒトマヒラノトキ  
二ほにかすズエハニヒラノトキ  
三キハギノコズエハニヒラノトキ

四モニモミユルアタカサキタア  
モがノニモミユルアタカサキタア

ビの力  
ユタタ  
シシル  
スキク  
フウウ  
ハスモ  
ギソロ  
リズリ  
サはト  
テヤノ  
ハワコ

ルカエ  
ハキニ  
ギミア  
ケリセ  
ニビハ  
リのイ  
ザニザ  
モモ  
トイト  
ヨテヨ  
ハハハ

ルル  
ノヨク  
キヨク  
タタタ  
ヲヲ  
ウラウ  
ハハ  
ンンン

春の曲

五

## 二、春の曲

一、空に流るる ひとひらの

雲にも 見ゆる あたたかさ。

きびしき 冬は 過ぎたりて、

春は 来にけり いざ友よ、

春の曲を うたはん。

二、ほのに霞める 山ふもと、

小川の水の セセラギは、

たのしき歌を さそはずや。

若き みどりの 野に出て、

春の曲を うたはん。

三、木本のこすゑに 花ひらき、

ほのばの にほふ 草の色、

あかるく歌ふ 諸鳥の

聲に あはせて いざ友よ、

春の曲を うたはん。

## 鷗

$\text{♩} = 96$

一ユメヤミルラシケフ一モマタ  
二ユメナミサマシそかはふねの  
三ユメヂタドリテミギハベ

ミブミ  
ギナニ  
ハニス  
ギナニ  
ミミユ

八

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

## III 鷗

四

九

一、夢や見るらん、けふもまた

汀にねむる 鷗鳥

水の流の、音もなく、

静かに暮るる 春の日や。

二、夢なさましぞ、川舟の

舟うたしげく 聞えねば。

水にまどろむ 水鳥の、

静かにむすぶ けふの夢。

三、夢路たどりて 汀邊の

夢は、鷗に 幸多く、

水に、姿も うつしつつ。

ひねもす、水も静かれ。

## 風 薫る

*4* *4*

*e = 120*

1. ト リ ノ ネ シ ゲ キ ャ マ ア ヒ ノ  
2. ま き ば の ひ る ひ り き に  
3. ク ハ ノ ハ ミ テ テ カ ゴ セ オ ヒ

ア ム イ ソ ギ ノ ミ テ テ カ ヘ リ エ  
ア ム れ を は な ら れ シ バ ワ カ バ カ  
シ た ホ イ ゾ ギ ノ ミ テ テ シ ウ フ カ バ カ

ラ ヒ ウ タ ハ ノ ム ギ ク ハ ノ ム ギ ク  
カ パ り タ モ キ ホ ガ リ タ モ キ ホ

一〇

ル カ カ カ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ  
カ カ カ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ ゼ  
ツ ッ サ カ キ シ た ホ ロ チ ホ キ チ ホ  
ニ ズ ウ フ カ ジ ホ ロ ジ ホ ジ ホ ロ ジ ホ

- 一、鳥の音しげき山あひの  
青葉・若葉に、日の光り。  
丘の麥畑飛ぶ蝶の  
白き翅に、風薰る。
- 二、牧場の晝の静けきに、  
群をはなれし若駒は、  
雲雀きくとや、眼をとぢて、  
立ちて動かず、風薰る。
- 三、桑の葉滿てて、籠ぜおひ、  
急ぎ野路を歸り行く、  
歌もほがらのはらからぬ  
頬に吹来て、風薰る。

## 四、風薰る

風薰る

一一

藤  
(二部合唱)

*L = 66*

I  
 一スナノシロキニムラサキ  
 ニをとめいくたりつぎ  
 二スナノシロキニムラサキ  
 ニをとめいくたりつぎ  
 ノハナノコボレシウツク  
 にひがさたたみてげた一ね  
 ノハナノコボレシウツク  
 にひがさたたみてげた一ね

*L = 66*

II  
 一スナノシロキニムラサキ  
 ニをとめいくたりつぎ  
 二スナノシロキニムラサキ  
 ニをとめいくたりつぎ  
 ノハナノコボレシウツク  
 にひがさたたみてげた一ね  
 ノハナノコボレシウツク  
 にひがさたたみてげた一ね

*poco rit.* *はやめに*

シーサウツクシサシ  
 さてけたねぎさてふぢの  
 シーサウツクシサシ  
 さてけたねぎさてふぢの  
 クタヘテヲサナゴハカミワカチ  
 はなぶさくぐりてはさきあらそ  
 クタタヘテヲサナゴハカミワカチ  
 はなぶさくぐりてはさきあらそ

*V*

*a tempo*

テハツツ一ミテハエミカハシ  
ヒテのぼ一リウくこそぞにぎ

*V*

*a tempo*

テハツツ一ミテハエミカハシ  
ヒテのぼ一リウくこそぞにぎ

*Vp*

*V più p*

タルフチビヨリフチビヨリ  
タはふたいこばしたいこば

*Vp*

*V più p*

タルフチビヨリフチビヨリ  
タはふたいこばしたいこば

## 五、藤

砂の白きに、紫の

花のこぼれし 美しさ、美しさ。

しばし 讀へて、をさな兒は、

紙わかつては、包みては、

笑みかはしたる

藤日和、藤日和、

二、少女、幾人、次次に、

日傘たたみて、下駄ぬきて、下駄ぬきて、

藤の花房くぐりては、

先争ひて 登りゆく

聲ぞ賑ふ

太鼓橋

太鼓橋

希 望



希望

一六

西 史

*mf*

*f*

希望

西 史

一七

## 六、希望

見よや、  
野路の草に見よや。

枯れはてたりと見えながら、  
昨日も、今日も、新しく  
芽は萌出でぬ、

望に燃えて。

芽は萌出でぬ、

望に燃えて。

## 二、見よや、

静かに枝を見よや。  
さびしく立ちし木木に、みな、  
かくれし強き力もて

葉は伸いでぬ、

望に燃えて。

葉は伸いでぬ、

望に燃えて。

## 三、見よや、

我等の明日を見よや。

をさなくあれど、若き日に  
生まれて來にし人として、

名をあげでやは、

望に燃えて。

名をあげでやは、

望に燃えて。

## 四、見よや、

來ん日の日本見よや。

正しく高く日の御旗  
かざして、永久に外つ國と  
手をとり行かん、

望に燃えて。

手をとり行かん、

望に燃えて。

梅雨晴

$\text{♩} = 84$

一ヤホニスズメノイクニチブリニ  
ニよくもつづきしつゆけさはれーて

アサヒヲマチテタカラニナケバ  
しめりもきよきよあけのにはに

ニハノアラバヲフキクルカゼノ  
こぼれこぼれしがくろのはなを

キヨキヲホメテマドアケハナチ  
はきすてかねててにとりあげて

梅雨晴

朝日を待ちて高らになれば、  
雀の窓に、  
幾日ぶりに、  
庭の青葉を吹来る風の

アヒラミツルはスガシヒヨミル  
ソフキツトキツ

一 よくも  
つづきし 梅雨今朝はれて、  
しめりも清き 夜明の庭に、  
こぼれこぼれし 桜の花を、  
掃きすべてかねて、

手にとりあげて、  
一つ二つは、土拂ひ見る。

## 秋近し

秋近し

秋近し

秋近し

*J = 92*

1st staff lyrics: ノヒゾ、コララ、キサ一、  
二みや、ニガハ、カホク、ノのテ、  
二三、二みや、ハチガ、ノヒゾ、  
ルにノ、ハムホ、ヒはマ、  
モたカ、ヤヤヤ  
2nd staff lyrics: ネリユ、サクユフ、ニのク、  
テとレ、カホク、ノヒゾ、  
マタタ、ハオタ、リリキ、  
ナシシ、ヒハシ、  
ヒヤリサ  
3rd staff lyrics: ハニク、カホク、  
ハニク、カホク、  
ハニク、カホク、  
ハニク、カホク  
4th staff lyrics: フテベ、オハヒ、  
ロネア、ノベレ、  
タクダ、タクダ、  
タクダ、タクダ  
5th staff lyrics: スムイグ、ハハハ、  
キテナ、スムリ、  
ツキラ、スムリ、  
ツキラ、スムリ  
6th staff lyrics: シシシ、  
アアア、カカカ、  
チチチ、カカカ、  
キキキ、カカカ、  
キキキ、カカカ

一一

## 秋近し

一一

## 八 秋近し

一、庭の垣根に咲きのころ  
花の向日葵いろさめて、

思ひ入るがにうつむきぬ。  
はや秋近し、秋近し。

二、道のほとりの草むらに、  
蟲のはたおり猩のべて、

機やおるらん鳴きいでぬ。

三、やがて暮れゆく夕空の  
星のまたたき、見あぐれば、  
光さやかにゆらぐなり。  
はや秋近し、秋近し。

灯

*d=49*

**灯**

ピアノ *pp*

一タ カイ ミソラニ ヒガヒトツ  
二と ほい みそらに ヒガヒトツ  
三ウ ミノムカフニ ヒガヒトツ

一タ シカトオモヘバマドアカサヒリマ  
二と おおもモヘバシマノホシマノ  
三ウ シカトオモヘバマドアカサヒリマ

九 灯

一、高高いみ空に  
窓かとと思へば  
二、遠いみ空に  
窓かとと思へば  
三、島船燈が向かふに  
窓かとと思へば

島船燈が向かふに  
窓かとと思へば  
島船燈が向かふに  
窓かとと思へば

舟にのりて

*J = 120*

舟にのりて

一フ ネニノリテ カハヲクダル  
二ふねにのりて うみをわたる

ユルキナガレキヨキフチセ  
かちはまことただにひとつ

コウヲクグーリ  
ヒはきゆくーて うみをけたて

ガケノエダニハナモサキテ  
きせんゆけどかかせにしらほ

六

舟にのりて

コトリトビテミヒネニワクハ  
タカシマアゲテ

クソカキリカ  
タカヘズ

タカハヲクダル  
タダマシぐらに

ハミヲクダル  
フネニノリテ

舟にのりて

二七

## 一〇、舟にのりて

一、舟にのりて 川を下る。

ゆるき流 淸き濁瀬

小魚くぐり

岸の草に、蘿の枝に、

花も咲きて、小鳥飛びて、

峯にわくは、雲か、霧か。

心樂しく、ただひたすらに

川船を下る、川船を下る、

舟に のりて。

## 一一、舟にのりて 海を渡る。

舵は 誠ただに一つ。

遠き行手、

波を蹴たて、汽船ゆりど、

風に 白帆 高くあげて、

廣き波路 目あて かへず。

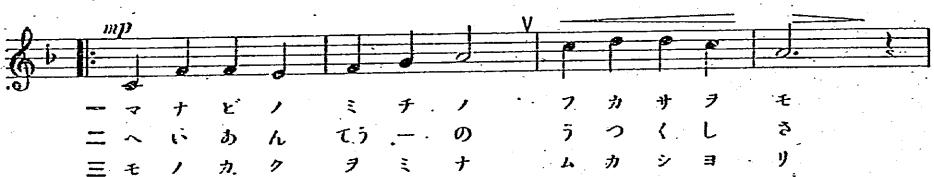
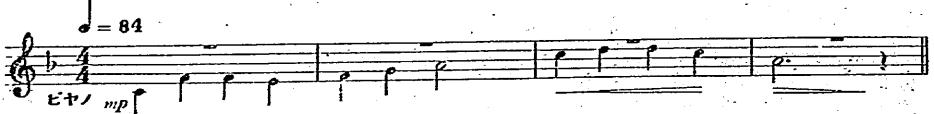
心正しく、ただましぐらに、

海を渡る、海を渡る、

舟に のりて、

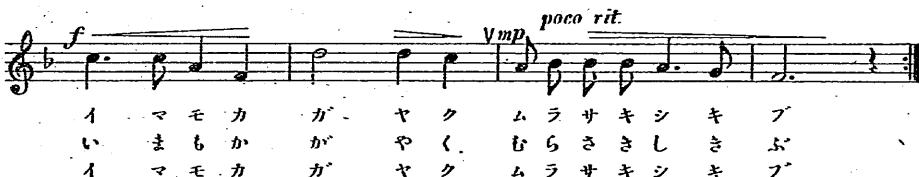
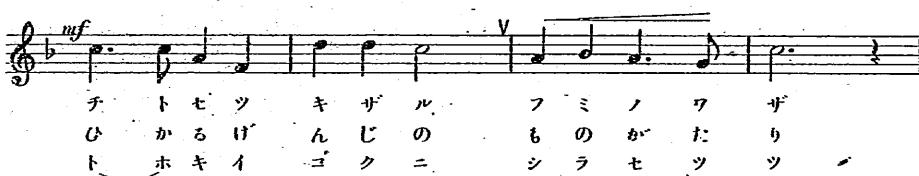
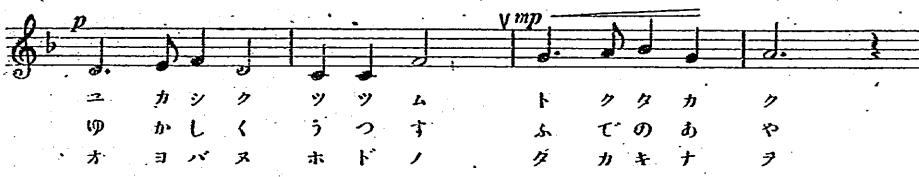
紫式部

紫式部



三〇

紫式部



三一

## 一、紫式部

學の道の深さをも、  
才のすぐれし力をも、

ゆかしくつつむ徳高く、

ちとせ盡きざる文のわざ、

今もかがやく

紫式部

## 二、平安朝の美しさ

繪にもひとしきありさまを、

ゆかしくうつす筆のあや、

光源氏のものがたり、

今もかがやく

紫式部

## 三、もの書くをみな昔より

あまたあれども、男さへ

およばぬほどの高き名を、

とほき異國に知らせつゝ、

今もかがやく

紫式部

## 二、高嶺の月

一、分けゆく山の登口、

幾つかあれどやがて見る

月は一つとうたはれし、

高嶺の月のけだかさよ。

二、濁に満てる人の世に、

わが身を清くふるまひし

代代の聖もおもはるる、

高嶺の月のたぶとさよ。

三、浮世の塵にまじるとも、

われらも共につとめつつ、

磨け心をうつくしく、

高嶺の月を鏡にて。

## 高嶺の月

The musical score for 'Takane no Tsuki' includes the following lyrics:

- Top Staff: グよト リのル フヒマ ノルニ ボとジ マテリ ツヨミ クロタタタタ  
ワニウ ケゴキ ヤミチ ユリヨ ノリ ルシツ ミヒツ テマメ ルトガル  
二三三
- Middle Staff: ヴィーフ ホクガレ アキト カモモ ドクニ ヨモレ ヤフツ ドクニ レモレ  
クガレ シムラ トモモ ハクガ レルシ シルク ハクガ レルシ シルク  
チニモ
- Bottom Staff: キヤガ カカカ ヒヒコ トヒコ タモラ ウオウ タモラ ウオウ  
カカカ ノネネ シツツ キキキ ターガ ケカタ ノラ

村時雨

村時雨

$\text{♩} = 92$

— ♩ ノハニ タサニ サラサラト  
二  $\text{mp}$  すきゅくあとを ながむれば  
スギユクアメヤムラシグレレ  
こころもいつかあらはれ  
mp ノハラニヤマニムラザトニ  
mf のはらもやまもむらざと  
mf ヒハテリナガラツカノマニ p クダグサラ  
チめざむるばかりつかのまに mp ただすが

三六

一、三、村時雨

三七

村時雨

1.  $\text{v più p}$  2.  $p \text{ poco rit. } a \text{ tempo } 2$

サラトソソギュクリーなりにけり  
野原に山に村里に  
日は照りながら東の間に  
たださらさらとそぞぎゅく  
一過ぎゅくあとを眺むれば  
心もいつか洗はれ  
野原も山も村里も  
目ざむるばかり東の間に  
ただすがすがとなりにけり。

## 一四、子守歌

一、ねむれよ、ねむれ、  
風も うららに、

花散る 木陰。

ねむれよ、母と、  
搖籃は 搖れぬ。

二、ねむれよ、ねむれ、  
やよ、ねむれ、ねむれ、幼兒。

波は 日暮れて、

闇も ねむる。

ねむれよ、母の  
歌聲をききて。

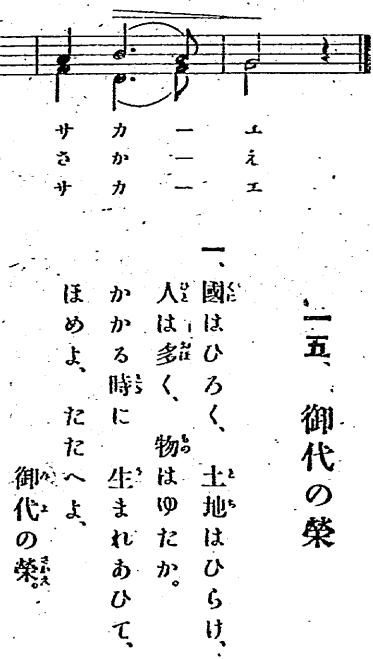
やよ、ねむれ、ねむれ、いとし兒。

## 子守歌

$\text{♩} = 84$

一木 ムレヨネムレカナカゼミハウラタニ  
二木 ムレヨネムレカナカゼミハウラタニ  
ハナデルコカーゲネムレヨハト  
か もめ もね むー る  
ユリカゴハエレスヤヨ  
う たごゑをききて  
ネムレネムレヲサナシ

## 一五、御代の榮



一、國はひろく、土地はひらけ、  
人は多く、物はゆたか。  
かかる時に生まれあひて、  
ほめよ、たたへよ、

## 御代の榮

二、陸に海に、そなへ成りて、  
さらには進む、空の護る。  
三、傳統遠き誇もちて、  
しかも若き國は日本。  
伸ぶる力、内に充てり。  
ほめよ、たたへよ、

## 御代の榮

**御代の榮**  
(二部合唱)

$\text{♩} = 84$

*mp*

*mf*

*f*

## 冬來る

*B* = 132

1  
一 サートノヲガハノノタバーシニモ  
二ニさふ一きばやーのキ  
三ユフ一ベハル一ケ

(V)

2  
一 サートノヲガハノノタバーシニモ  
二ニさふ一きばやーのキ  
三ユフ一ベハル一ケ

(V)

3  
一 サートノヲガハノノタバーシニモ  
二ニさふ一きばやーのキ  
三ユフ一ベハル一ケ

(V)

四二

1. 里の小川の板橋に、  
此の頃、朝毎、  
霜しげくして、  
流も細くなりまさり、  
冬來る、冬來る。

2. 雜木林の鳥の音も、  
雲間をもれ来る  
日の光さへ、  
さすがに寒き心地して、  
冬來る、冬來る。

3. 夕遙けき北山の  
頂白きは、  
我が知らぬ間に  
雪こそはやも降りにしか。  
冬來る、冬來る。

1.2. 1.3. 4

## 一六、冬來る

四三

## 御裳灌川

*p* 敬虔に

$J = 80$

一アサギヨメ ミモスソガハニ  
ニホカミドリコだちがくれに  
三オホヤシマタニツハジメノ

カミヂヤマカ カゲラウツシテ  
カイイゲギニカマツレル

四四

*cresc.*

ユクミヅノガレキノ  
カミガキナヒイノ  
カミカゼノ

カラハラズスエカケテ  
おほまへおづかフ  
ミヤシロフリデ

カミヂヤマカ  
カゲラウツシテ  
カイイゲギニカマツレル

スミゾーマサレブ  
ふミシルモニカート  
ミルモニタフート

四五

## 一七、御裳澗川

一、朝清め 御裳澗川に、

神路山影を映して、

行く水の流かはらず、

未かけて澄みぞまされる。

二、深みどり木立がくれに、

いや高く千木に燈木、

神垣のひろき大前

おのづから伏して額づく

三、大八洲國つはじめの

大神齋きまつれる、

神風の伊勢の御社、

ふり仰ぎ見るもたふとし、

## 一八 薩摩守

菜華の春も移ろへば、  
雲北嶺にむらがりて、  
荒ぶは、木曾の青嵐。

一、雲井の空と別れては、  
未八重潮の浪枕。  
さだめの果を行くわれと、  
悟れどかなし、歌の道。

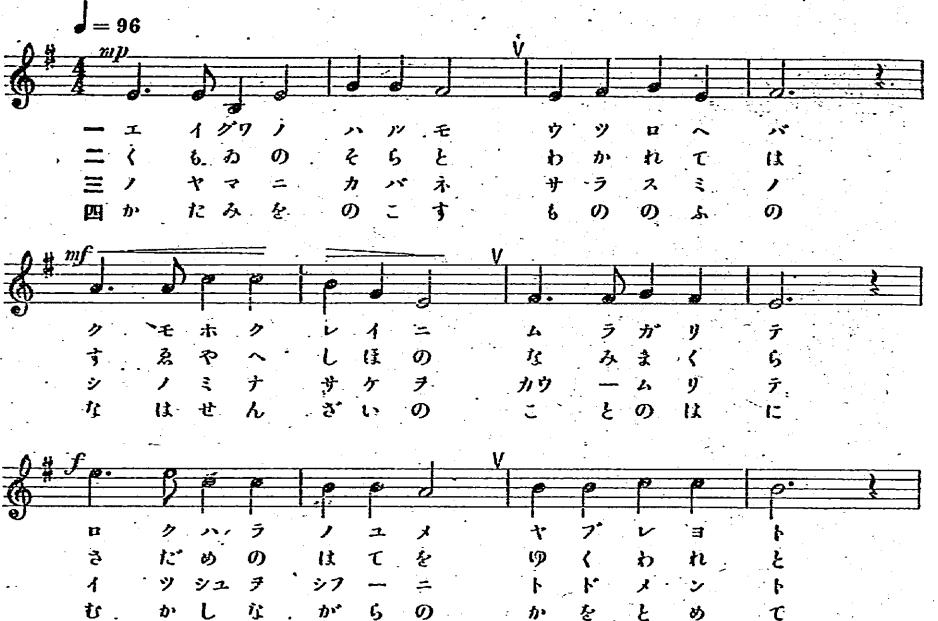
二、ソなハカキかアゆ  
サとタま  
ハどモも  
スカタほ  
ノしレし

三、野山に屍さらす身の  
師の御情を蒙りて  
一詩を集にとどめんと、  
たたくもあはれ、夜半の門。

昔ながらの香を留めて、  
譽もゆかし、山ざくら。



## 薩摩守



# 一九 幼き頃の思い出

幼き頃の思い出

ルルブ  
一一一  
去にし秋  
姉妹  
ユヘコ  
トニロ  
ノカハ  
メニヨ  
ユムコ  
シシト  
ハカサ  
キヤニ  
アアア  
アアア  
ルフル  
ウナフ  
アアア  
アアア  
とはにぞ  
忘れじ  
幼き頃の  
かの砂山  
母の聲  
かの搖籃  
子守歌  
ああ、懷かしや、胸に還る。  
ああ、ふる里に心運ぶ。

# 幼き頃の思い出

*J = 84*

ピヤノ *mp*

1. イフハ  
2. ニキハ  
3. ハ  
シのノ  
シのノ  
アヨコ  
キルエ  
アドコ  
イオリ  
ネモモ  
モヒウ  
トテタ  
トテタ  
マモゴ  
マモゴ  
ヤカラ  
ヤカラ  
マスエ  
マスエ  
ツナリ  
ツナリ  
カガカ  
カガカ  
ソス  
ソス  
ビビレ  
ビビレ  
シシジ  
シシジ  
アアワ  
アアワ  
タカト  
タカト  
ケゲハ  
ケゲハ  
カフニ  
カフニ  
リムソ  
リムソ  
アアソ  
アアソ  
ノのノ  
ノのノ  
ヒヒヒ  
ヒヒヒ  
デーデ  
デーデ  
ハハハ  
ハハハ  
モモモ  
モモモ  
オオオ  
オオオ  
ヒヒヒ  
ヒヒヒ  
ヨココ  
ヨココ  
ロロロ  
ロロロ  
ナナナ  
ナナナ  
キキキ  
キキキ  
サササ  
サササ  
ヲヲヲ  
ヲヲヲ

## 二〇、春の訪れ

一、春の來ると いち早く  
咲くや、野中の梅の花。  
そよ吹く風も、花の香の  
匂。ゆかし。

二、すがたやさしき 鶯の、  
裏の小藪に音も高く、  
野山の鳥に さきがけて、  
春を告げぬ。

三、ほのも芽ぐみし 茅草の、  
色もさやはく青みつつ、  
野原も、山も、うらうらと  
霞みそめぬ。

## 春の訪れ

J. = 60

## 一一、雛祭の宵

一、ほんぼりに灯を入れるるとて、  
電燈殊更消すもよし、  
瑠璃ゆれて、きらめきて、

物語めく

雛祭の宵。

## 二、十二重の姫君の

冠少しく曲れるを  
直すとのべし 手の觸れて、  
桃の花散る

雛祭の宵。

三、官女三人のまねすとて、  
妹はじめの振舞に、  
加りたまふ 母上の  
ゑまひ うれしき

雛祭の宵。

## 雛祭の宵

$J=96$

1ボンボリニーヒヲイルルトテ  
2じふーにひとへのひひめぎみの  
3クワーンチヨミクリノマネストテ

デントウニコトサラケスモヨシをニ  
カムむりすこさくまがれがれヒ  
カイモウトマジノフルマヒ

エウーラタユーレテキラメーキテ  
なほすとタベシテのふーれ  
クハハリマフハハウヘ

雛祭の宵

送別の歌  
(独唱及び二部合唱)

*J = 69*

*mp*

*J = 69*

*ビヤノ J = 69*

*mp*

一ユ ク カ ウ ガ モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ  
二ユ ク カ ウ わ ガ ト モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ  
三ユ ク カ ウ わ グ ト モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ

一ユ ク カ ウ ガ ト モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ  
二ユ ク カ ウ わ グ ト モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ  
三ユ ク カ ウ ガ ト モ マ ナ ビ タ ト モ ヨ ニ ヤ ニ ラ

*Vp* 独唱

バ バ カ ケ ゲ リ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ  
バ バ カ ケ ゲ リ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ  
サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ サ  
リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ リ  
ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ク ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ノ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ヨ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
コ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
リ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
カ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ケ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ギ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
モ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ハ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ナ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
リ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ド ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ラ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
コ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
モ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ホ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
サ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
デ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ニ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ス ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
キ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ミ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
エ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
モ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ホ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
サ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
マ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ハ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
の ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
ノ ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト  
五七

## 二二、送別の歌

一 行くか わが友 學舎あとに  
 さらば翔れよ 小鳥の如く  
 獅唱野はみどりに萌え  
 花咲き 風にほふ この春に  
 霞を越えて 光へ 光へ 希望の光へ。

二 行くか わが友 學舎あとに  
 さらば漕出よ 努力の船を

獅唱世の嵐は吼え

霧巻き 波荒ぶ

その海を

三 行けや わが友 まさしくあれや

されど思へよ 泉の如く

獅唱その心に湧く

盡きぬ思出の

この窓ぞ

夢にも通ふ 故里 故里 こちらの故里



K140.7-2.2-1

發行所 大日本圖書株式會社

印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町百八番地



昭和十年三月二十八日  
文部省検査済

著作権所有

著作者

文

部

省

印刷者 大橋 光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

代表者 杉山 常次郎

發行者 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座二丁目五番地

昭和十六年十一月三十日 記刻發行  
昭和十六年三月二十五日 記刻發行  
昭和十六年三月二十七日 印刷  
刷行

定價 金拾壹錢  
◎  
高等小學唱歌 第一冊用年  
18

昭和九年八月二十九日  
別冊付録大日本圖書株式會社入乙

